

爽風

神戸市シルバーカレッジ情報誌
2025年6月号 第227号

新入生特集



「道端に咲き乱れる」 KSC 写真クラブ 国際31期 浅井 富美

2	32期生入学式
4	新入生の入学感想
6	新入生歓迎交流会
8	教室だより（健康・国際・音文・園芸の各31期）
10	29期生卒業式
12	29期生歓送交流会
14	トピックス（神戸まつりに参加して）
15	サークルだより・事務局だより・文芸サロン
16	グループわだより・図書室だより・編集後記

神戸市シルバーカレッジ情報誌「爽風」は、カレッジ内の行事・教室だより・サークル活動・トピックスなどを取り上げながら、学生だけの編集により発行しています。「爽風」への情報・ご意見は、次のホームページからお寄せください。
<https://ksc-sofu.net/> スマホでは右のQRコードからご利用できます。



神戸市シルバーカレッジ 32期生入学式

令和7年4月8日、晴れ渡る青空と満開の桜の下で神戸市シルバーカレッジの入学式がカレッジホールにおいて執り行われ、32期生261人が入学しました。

午前10時30分、新しい学びへの期待に満ちた雰囲気の中、入学式が始まりました。

学長式辞

前田学長は、お祝いの言葉の後、神戸新聞夕刊の投書欄「イイミ」で目に留まった「第2の学生生活はじまる」というタイトルの投書を紹介しました。投書には、新しいことに挑戦したいという思いからシルバーカレッジに入学し、校外学習やクラブ活動を楽しみにしているといった内容が書かれていました。学長は、「シルバーカレッジには校外学習やグループ学習など楽しい授業が多く、本校の授業のなかで多くの指摘や刺激を受けていただきたい」と新入生を激励しました。



さらに、「シルバーカレッジは平成5年9月の開校から今年で32年目を迎えます。その間、平成7年1月の阪神淡路大震災を経験し、コロナのパンデミックも乗り越えることができました。卒業生は1万人を超え、在校生の満足度も高いといわれる中、今年は61人の再入学があり、再々入学を希望する声が寄せられている」と紹介されました。

最後に、「本校はクラブ活動が極めて活発です。その中で、多くの先輩や同級生との交流を深め、これからの学園生活が実りの多いものとなることを願っています」と新入生にエールを送りました。

在校生歓迎のことは

在校生を代表して、食文化専攻30期の江 丕正さんから歓迎の言葉が贈られました。

「長年にわたり、会社や組織、ご家庭でそれぞれの立場で役割を果たされ、強い意欲を持って再び学び出そうと今日の日を迎えられたと思います」というお祝いの言葉に続き、「神戸市シルバーカレッジのモットーである『再び学んで 他のために』は、自分自身の学びとともに、ここで学ぶことを大切な家族や友人、地域の人々、後輩たちのために伝えることで、あなた方の学びがきっと誰かの笑顔につながるはずですよ」と本校で学ぶことの意義について話しました。

さらに、「3年間のカレッジライフでは常に自分自身が目的をもって行動することや周囲のメンバーと力を合わせて学び合う心構えが大変重要です」とのアドバイスがありました。

そして最後に、「3年間の貴重な時間を有意義に過ごされることを願います」との言葉で締めくくりました。



新入生あいさつ

新入生を代表して、国際交流・協力コースの亀原 圭一さんがあいさつを述べました。

「先輩や友人たちのなかに各地の高齢者大学で充実した日々を送っている方々がいることを知りました。そして、シルバーカレッジのオープンキャンパスに参加したときに感じた学生のみなさんの積極的な姿勢や各分野の専門の講師から学べる機会に触れ、入学を決めました」と、入学に至った経緯について語りました。

続けて、「定年退職後の9年間携わった障がい者就労支援活動を通じ、根気のある活動ながら、障がいを持つ子供たちの成長や就職して頑張っている姿、さらに保護者の喜びに接すると『少し世の中のお役にっているな』と実感しました。その活動を通じてやりがいを感じて、福祉とボランティアに興味を持つようになりました」と、経験談を紹介しました。

最後に、「学んだことを地域や他の人たちの役に立てるように取り組むとともに、久々の学生生活を大いに楽しみたいと思います」と、新たな学びへの期待を込めたあいさつがありました。



入学式当日の様子

32期生の入学式が好天に恵まれるなか開催されました。ここでは当日の様子を写真で紹介합니다。



正面玄関の入学式立て看板



各コース・専攻の受付



入学式開始前のカレッジホール



ふれあいホールではサークル紹介パネルで情報収集



式次第最後の校歌斉唱



音文3年生による合唱



新入生にとっては初めての校歌



入学式が終わり、コース・専攻ごとの
集合写真の準備



中庭ではアロハワイアンの
デモンストレーション



太極拳のデモンストレーション

32期新入生に入学の感想を聞きました

《健康ライフコース》

高木 基實

3年前、40年余りの会社生活での忘れ物探しにシルバーカレッジに入学し、充実した学園生活を過ごしました。楽しく、あっという間の3年間で、まだ忘れ物があるような気がして、再入学を決意しました。

前回の食文化専攻では、調理実習を通じて多くを学び、料理を作るようになりましたが、今回の健康ライフコースでも新たな仲間と楽しく学習し、健康に関してさらに深く幅広い知見を得て、人生100年時代を上手に歩みたいと思います。そして、集いし70人と共に卒業式を迎えたいです。

西川 雅祥

私は3年前に食文化専攻に入学し、この春卒業しました。そして、引き続き健康ライフコースに再入学しました。食文化で学んだ数々の調理実習や講義は、中味の濃いもので、すぐ充実したものでした。おいしい料理を作っても健康でなければおいしいと感じられないこともあります。人生で一番大事なことは、生き生きと目的意識を持ちながら健康な毎日を過ごすということだと思います。クラブ活動もすでに6つ入りました。さらに有意義な3年間にしたいと思っています。

《国際交流・協力コース》

中田 知富美

国際理解のための学びを得て、世界や日本で起こる問題や課題に対して、自分なりに考えられる視点を持てるようになりたいと思い、入学しました。

素晴らしい先生方による充実した授業や活動を通じて成長したいと思っています。

クラスメートや先輩との交流も楽しく、クラブ活動では、英語で歌をスラスラ歌えるようになれるかとドキドキしています。これからの学びがどのように広がるのかは自分次第ですが、新しい挑戦を通じて、充実した日々を過ごしたいと思っています。

栗山 健一

企業人としてずっと理系の世界に浸っていた私は、会社を卒業した今、もう一度社会全体を学び直したいという思いから入学しました。入学式では、みな晴れやかで新しいことに挑戦したいとする気持ちが溢れ、私もワクワクする気持ちでいっぱいでした。国際交流は、さまざまな人や考え方に会える場だと思います。他国を知り日本を知り地域の人や文化を学ぶことで、自分がこれから他のためにどのように貢献できるの

か、じっくり新しい自分を発見していきたいと思っています。

《ECOライフコース》

和泉 憲明

2022年12月に47年8か月の会社生活を終了しました。2年3か月間は、何もせず過ごしてきました。会社では主に公害防止装置の設計、製作、建設、試運転とバイオマスの有効利用技術の開発に携わってきました。ここでもう一度、ECO(ECOLOGY)とは何か？何をなすべきか？を考えてみたくなり、本コースを選択しました。本コースを選択された方の中で同じ興味をお持ちの方と共にテーマを決めてもう一度考えてみようと思います。

坂本 幸子

29期の生環から、32期のECOライフに再入学という、めったにないチャンスをいただきました。前回、ぼーっとして学びそこなった分を、もう一度やり直したいと考えています。

クラスメートは19人です。少ないからこそその面白さや大変さがあるでしょうが、新しいカリキュラムや校外学習も楽しみにしています。



《美術・工芸専攻》

木村 初美

今年の3月で会社を退職するにあたり、「なにか始めたい」と考えました。自分のために時間を使う、そんなぜいたくができる時が来たと思い、シルバーカレッジに応募しました。専攻は迷いましたが、「絵を見るのが好き」という理由で美術工芸を選びました。そして4月、不安と期待の入り混じった学園生活が始まりましたが、同じクラスの皆さんの元気さや明るさ、「人生楽しむぞ！」という空気感に触れ、期待とやる気があふれてきました。これから皆さんとわいわい楽しい学園生活になりそうな予感でいっぱいです。

白川 友彦

昨年度入学した知人の紹介で、学校見学会に参加しました。そのとき、学生の皆さんの生き生きとした表情に「なぜ？」と

驚き、元気に圧倒されました。そして無事入学することができました。絵画や陶芸に全くの素人である私ですが、丁寧な指導、ものづくりの楽しさ、みんなで活動するというほんわかとした温かさに、「これか」とその理由が分かりました。これからの活動が楽しみです。またクラブ・ボランティア活動などを通じて、地域・社会に少しでも貢献できればと思っています。



《音楽文化専攻》

永井 謙一

2年前に音文30期として入学したものの、諸事情により休学し、約1年半のブランクを経て今春、音文32期として再スタートさせていただきました。前回同様、お互いを何も知らない手探りの状況で、クラス合唱をゼロからつくり上げるプロセスは、独特の緊張感とワクワクで「これが音文だった～」と懐かしく感じました。まだごちない雰囲気漂うこのクラスが音楽活動を通じてどう変化していくのか、一抹の不安と大きな期待を感じつつ、その変化を楽しめればと思っています。

一ノ瀬 香子

思えば、この歳になって学生になるとは、昨年の秋まで全く人生設計に入っていませんでした。「老後はゆったり」という時代ではなくなった昨今、起きて寝るまで何をするのか？豊かな老後とは？KSCにはそれにつながるたくさんの楽しいことがあると知り、オープンキャンパスに参加しました。そして、今ここにいます。入学してから卒業するまで何をするのか？代表にもなり、新しい仲間たちとのクラス合唱に取り組む中で、休みかけていた脳が活性化されつつあるようです。



《園芸専攻》

松本 久男

入学式が初めての学校訪問となりました。校舎はヴォーリス氏風の品格を感じました。前面道路はミッドランドレンガの舗装で、伝統を感じさせる施設に感動しました。

入学式では、私よりも若い人が多いなと思う中、年長の方々の闊歩(かっぽ)される姿を拝見して、私もまだまだ負けずに頑張らねばという思いを強く持ちました。

私にとって園芸とは剪定鋏を持って植木の枝の剪定を学習するのが中心と思っていたのですが、それは誤解でした。花や野菜、果樹などについても、広く専門的に学ぶのです。授業の講義はなんとか理解しているつもりですが、記憶力に問題があると感じるこの頃です。

十川 恵子

神戸婦人大学に在籍時の同じ学部の方、仕事で知り合った民生委員の方がシルバーカレッジに通っており、その魅力を教えていただき、自分もぜひ入学したいと思っていました。

当時は倍率が非常に高いと聞き、二の足を踏んでおりましたが、年齢と体力のことを考えると「今しかない」と思い、お願いいたしました。

入学が決まった時の喜びは大きく、少し不安もありますが、これからは皆さんとともに園芸のことを深く学んでいきたいと思っています。

《食文化専攻》

大西 農夫明

仕事の引退を迎える時期を迎え、「引退後に何をしようか」と考えていたとき、周りの人がKSCで学んだことを耳にして、調べると「これもいいかな…」と思い入学の決意をしました。

最初は園芸が趣味のため、園芸を学ぼうと思っていましたが、家内の「食事作りも大変なんよ」との言葉を聞き、食文化を専攻して、たまには「亭主のレシピ」で食事作りを担当してみよう、と食文化を学ぶことにしました。

そして、いろいろな料理が作れるようになれば、孫たちを呼んで、「ジジの手料理パーティ」を開催し、ビールを飲みながらワイワイやりたいと思っています。

田淵 節子

今年の正月に子供から、シルバーカレッジのことを聞いて、そんなところがあることを初めて知り、見学に行きました。学校も素敵で周りの環境も素晴らしく、ぜひ行きたくくなりました。

入学して、まずびっくりしたのは、クラブ活動の多さです。どれも魅力的で何に入ろうか迷ってしまいます。

学生時代、腎臓病になった私は、クラブ活動はもちろん体育もいつも見学でした。

今こうして学校に行けることに遅咲きの青春（年はとっていますが）を謳歌(おうか)したいと思います。

新入生歓迎交流会

5月20日～23日の4日間、各コース・専攻の新入生歓迎交流会がカレッジホールで行われました。

《健康ライフコース》

32期 高橋 聡・西村 彰治

5月のさわやかな青空の下、温かい雰囲気の中で32期生歓迎交流会が開かれました。はじめにクラブ活動の舞台披露を見せていただきました。どのクラブも生き生きと活動しており、表現力の高さがうかがえました。それは継続的に福祉施設など地域へ出向き、舞台活動を通して元気を与えているからだと思いました。

続いて2年生の佐古さんから「これからが新たな青春だ」と勇気づけられました。さらに3年生の塚原さんからは「クラスの仲間とともに思い切り楽しく体験してほしい」という言葉がありました。また、松田さんからは「(I)知性を磨く・(P)体力の維持強化・(S)社会参加・(T)積極的にトライ」というI・P・S・Tを意識して行動してみても、というお話がありました。具体的には、小さくてもいいから目標を設定し、それに向かってチャレンジしていくことが大事であるとの示唆をいただきました。



この会を主催していただいた2年生、3年生のおかげで、共通授業・スポーツ授業・各行事そして67のサークルが何のためにあるのかについて、改めて気づくことができました。自分なりに前に進もうと思います。クッキーと折り鶴のプレゼントもありがとうございました。

《国際交流・協力コース》

32期 地藤 晴美・中野 邦夫

カレッジホールへの入場行進は、在校生の皆さんの拍手に迎えられ、何だか気恥ずかしく、まさにピカピカの1年生！

在校生代表のあいさつの中で一番心に残ったのは、昨年の卒業生に「あなたはこの3年間で若返りましたか？」という質問を投げかけたところ、8割の方から「はい」という答えが返ってきたというお話でした。



シルバーカレッジは学べる上に若返ることができる素晴らしい場所で最高です！

クラブ紹介の演奏やダンスも華やかで楽しかったです。懐かしい曲で昔を思

い出し、3年間のカレッジライフに胸を膨らませる感想が多かったのも、再び学ぶことの素晴らしさですね。

クラブやボランティアでシルバーカレッジを満喫されている在校生の生き生きとした様子に元気をもらい、私たちへの歓迎の気持ちが伝わってくるひとときを過ごすことができました。

また、新入生代表のあいさつでは、来年2年生として新入生を迎える立場になるという言葉も胸に刻みました。

1年間は、あつという間です！充実した時間となるよう、国際交流・協力のクラスメートとチャレンジ精神を忘れずに、目いっぱい、カレッジライフを楽しみたいと思います。

《ECOライフコース》

32期 藤原 桂子・松枝 静紀

入学してひと月あまり、新入生歓迎交流会が開かれました。新入生や1年生と呼ばれるのは、まだ少し恥ずかしい気がします。今年のECOライフコースはわずか19人のクラスです。すぐにクラスの全員が親しくなれた利点がありますが、少し寂しさも感じていました。そんなときに同じコースを学ぶ先輩方と顔を合わせることができたのは、まさに心強い思いでした。30期生の「健康が一番」という言葉や、未永コーディネーターの「ECOや生活環境というと難しく感じるけれど、身近に起こっていることから考えればいいのですよ」という言葉は、これからの生活や学習へのハードルが下がった気がします。アトラクションのマジック同好会、ザ・カスターネッツ、アロハハワイアンズのパフォーマンスや、



31期生の歌や校歌の指導は、みなさん生き生きとして何より楽しそうでした。その姿は「もう歳だからと諦めることはないのだよ」という私たちへのメッセージのように感じました。

《美術・工芸専攻》

32期 羽畑 修・森崎 康文

5月というのに、じつと汗ばむ中、5月22日に美工32期生の歓迎交流会を開いていただきました。

最初に、フォークソングクラブによるオープニング演奏が披露され、懐かしい歌を口ずさみました。

31期の先輩から励ましの言葉をいただき、続いて学園生活の映像を見ながら、美工で学ぶ内容について、わかりやすく紹

介していただきました。

続いて、事務局の加藤さんからは、紙芝居形式で激励いただき、改めて感謝の想いを深くしました。

交流タイムでは、先輩方と楽しく話しができ、これからのカレッジ生活を楽しくいけると思いました。

アトラクションでは、マジック同好会の演技に驚き、場がさらに盛り上がりました。続いて、カスタネットの演奏により、グループのまとまりやつながりの良さを強く感じるとともに、この会をいっぱい楽しむことができました。

クラス代表の白川さん、木村さんからは、「すごいな、ありがたいな」という感謝の言葉とともに、「私たちもなれるかな？」という正直な思いも吐露されました。また、「先輩の作品がすばらしい。近づけるよう頑張りたい」との決意が示されました。

30期、31期の皆さんから入学に際しての記念品をいただき、



これからの授業で活用できるように、頑張っていること強く思いました。

最後に、記念撮影ののち、気持を新たにしてい会場を後にしました。

《音楽文化専攻》

32期 瀬下 博之・池内 真知子

新入生歓迎交流会が5月22日にカレッジホールで行われました。入場すると、校歌の合唱で迎えられ、3年生の歓迎の言葉に続いて合唱交流が始まりました。2年生、1年生、3年生と合唱披露が続きました。

入学後、課外活動で年に数回合唱を披露することがあるとのことで、クラスで集まり、合唱で歌う曲を選定し放課後に合唱の練習を行うことになりました。合唱のやり方や発声方法の指導もないままでもそのようなことができるのだろうか考える間もなく、曲を選定し合唱の練習を何回か行い、当日を迎えました。本当に皆がまとまってうまく歌えるのだろうかと思いましたが、LINEなどが駆使され徐々に皆の心が一つになり合唱になってきました。

2年生、3年生の素晴らしい歌声を聴いていると、私たちも来年はこのような歌声で新1年生を迎えたいと思いました。



心のこもった歓迎交流会の開催、ありがとうございました。これから3年間楽しく学びたいと思います。

《園芸専攻》

32期 谷口 真理子・磯崎 弘一

去る5月23日、待ちに待った新入生歓迎交流会がカレッジホールにて開催されました。

入場の合図とともに先輩方の拍手に迎え入れられ、まず驚いたことにプレゼント用にラッピングされたマリーゴールド苗が1人1つずつ机に並べられており、その可愛さに緊張の糸がほどけて行きました。



特に心に残ったのは31期生の水谷さんからいただいた歓迎のあいさつでした。瞬時に農園スタイルに変身し、パフォーマンスを取り入れたお話は楽しく興味深いものでした。一番の敵は「今日の作業はしんどいな〜、やめたいな〜」という自身の心であることをお聞きしました。この悪魔のささやきに私も挫折することが度々ありましたので、カレッジでは同じ目標を持った仲間となら前進できるかな？と勇気をいただきました。

その後のアトラクションでは3つのクラブが歌や楽器や太極拳を披露してくださり、私も先輩方のように放課後も充実した学園生活を送れたら良いなとワクワクしています。

《食文化専攻》

32期 大西 農夫明・田淵 節子

新入生歓迎交流会は「どのような催しがあるか」と期待しながら学習室で待機し、その後誘導されながらカレッジホールに向かいました。

最初のあいさつの後、フォークソングで昔口ずさんだ歌を聴き、若かりし頃を思い出しながら聞きほれ、太極拳の模範演技では、ゆっくりとした動きの中にも身体のバランスを取る難しさを垣間見ることができました。

また、スポーツ吹き矢では体験に参加した新入生が的の中心部に当てると、「オー！」との歓声とともに拍手があり盛り上がりました。

そしてフラダンスでは、南国のムードに浸りながら優雅な動きに感動させていただきました。

退場時には、クッキーをお土産にいただき、後で食べると「店で売ると確実に売り切れる！」と確信するほどおいしかったです。

このような楽しい催しをしていただいた30期、31期の先輩の方々にお礼申し上げます。大変ありがとうございました。



教室だより

《健康ライフコース》

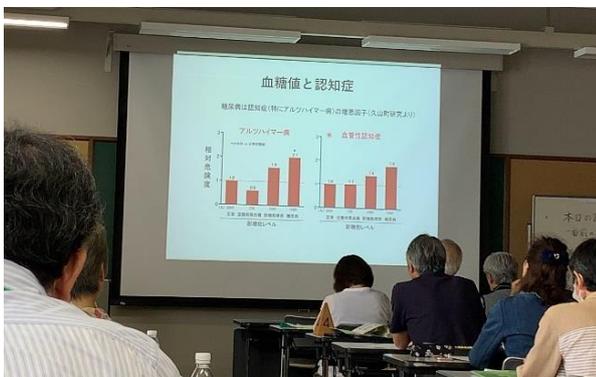
健康31期 常深 秀成

2年になってからは講義以外で登校する回数が増え、充実した日々を過ごしています。入学時には、83人だったクラスメートがさまざまな事情で現在は68人になりました。私自身は1年ぶりのフレイルチェックで、幸いにも昨年からの変化もなく、問題なしとの結果でひとまず安堵しています。

1年次の講義を振り返りますと、健康分野ではスポーツ科学、人間科学(コミュニケーション)、心理学、食物栄養学、スポーツ栄養学、薬学、医学(内科、歯科、リハビリ)、音楽療法士、鍼灸師、理学療法士の先生、睡眠、ウォーキングやストレスの専門家などの先生方の講義を受けました。生活習慣病やがん、フレイル、認知症について、いろいろな切り口からの原因分析や治療法、予防法の講義を受けた結果、心身の健康に重要なことは共通して食と運動と人(社会)との関わりだということを知り、大変有意義な経験でした。食に関しては、7月の調理実習で班の仲間と協力し、栄養バランスの取れた料理を作って食べました。また、運動ではウォーキングやストレッチ、ピラティス、ベタンク、ローンボールズなどについて学び、校外学習では森林浴やマインドフルネスを体験したのが楽しい思い出です。

アルツハイマー型認知症に関しては原因物質を除去し進行を遅らせる治療薬はできていますが、日々の食事や運動、知的活動や人との積極的コミュニケーション、適切な睡眠時間、さらには笑いが予防につながることを勉強しました。

これからは、ピンピンコロリを目標にカレッジでの学びやクラブ活動に加えて、バランスの取れた食事、適切な睡眠、趣味のパソコンとカメラ、日々のウォーキングとストレッチとともに「他がための活動」も実施していこうと思っています。



《国際交流・協力コース》

国際31期 飯田 光治

私がシルバーカレッジに入学した経緯は、カレッジ卒業生の知り合いから、卒業してもOBとしてクラブ活動や懇親会などに

楽しく参加していると聞かされ、学園案内や学生募集の資料を渡され入学を強く勧められたためです。

専門分野で研究を修められた講師の講義は興味深いものが多く、1年生の講義の中では、日本の食料自給率の低さを資料で示していただき、農地面積や農業就労人口などの推移から今の農業事情に警鐘を鳴らされた保田茂先生(神戸大学名誉教授)の講義が特に記憶に残っています。折しも、現在米の価格が高騰しているのは、需給バランスのひっ迫が原因との分析が大勢であるため、米は常に生産過剰状態にして余剰分は輸出へ回し、農業者への所得補償を手当するのが食料自給率の向上のために必要との食料問題研究家の意見もあります。グラフは講義で使われた食料自給率の資料で、日本は最下位となっています。



(注) 農林水産省「食料需給表」、FAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算。韓国については韓国農村経済研究院「食品需給表」、スイスについてはスイス農林省「農業年次報告書」による、供給熱量総合食料自給率は、総供給熱量に占める国産供給熱量の割合である。なお、畜産物については、飼料自給率を考慮している。また、アルコール類は含まない。ドイツについては、統合前の東西ドイツを合わせた形で適している。西歐7はフランス、ドイツ、イタリア、オランダ、スペイン、スウェーデン、英国の単純平均。
(資料) 農林水産省「食料需給表」

2025年は太平洋戦争の終結から80年、そしてアメリカが1964年に全面的な軍事介入を始めたベトナム戦争が、サイゴン陥落によって終結して50年の節目の年にあたります。国際社会は過去の戦争や紛争の歴史から、平和の大切さや国際秩序の重要性を学んだはずでした。しかし現実には、ロシアによる国際世論を無視したウクライナ侵略戦争は終戦の兆しは見えていません。さらに、第2次トランプ政権による乱暴な関税政策で、自由主義陣営の旗手だったアメリカが経済や安全保障の面でも、同盟国や友好国をも含む全世界を大混乱に陥れているように見えます。

国際社会に関する理解を深めることを目標とする国際交流・協力コースの学生として、現在世界で起こっている諸問題を正しく理解して行動したいと考えています。



《音楽文化専攻》

音文31期 安川しのぶ

仕事中心の生活から、「学校生活をもう一度体験したい、友人を作りたい」という思いでシルバーカレッジに入学して、アツという間に1年が過ぎました。何一つ専門知識がなかった私にとって、音楽文化専攻の授業は新鮮で面白く、たまに睡魔との闘いもあり、刺激満載です。クラスの人々と学び、歌い、笑い、考え、協力する楽しい学校生活を過ごしています。

1年前、入学式翌日に新入生歓迎会で新入生の私たちも合唱を披露するという衝撃的事実を知り、合唱経験者が少ない私たちはざわめきました。



そこからは、あれよあれよという間に歓迎交流会当日を迎え、初めての合唱を先輩方に披露しました。私は合唱の出来より、合唱をしたということに満足していましたが、先輩方が披露された合唱は、うっとりするほど素敵で力強く、感動しました。合唱練習を積み重ねてこられた努力の成果ということも知りました。そして、何より驚いたのがこの歓迎交流会を2年生が中心となり、学生で企画構成していたことでした。



あれから1年、通学路が満開の桜でお花見モードに彩られ、新学期を迎えました。各行事において役割の中枢を担う2年生

の始まりです。私たち31期生もクラブやボランティアと個々に活動しつつ、新入生歓迎交流会に向けてクラス全体で準備が始まり、大忙しの日々を送っています。合唱練習も継続して頑張っていますが、まだ感動を与えられるような素敵で立派な合唱には至っていません。今は、クラスみんなが元気で、明るく合唱ができることを喜びとし、卒業を迎える頃には日々の努力が成果につながると信じ、クラスの和を大切にもっと強くつながっていけるといいなと願っています。



《園芸専攻》 2年目の挑戦

園芸31期 水谷 好和

2年目の園芸の授業が始まりました。私は家でプランターや植木鉢で野菜や花の苗を園芸店で買ってきて植えて楽しむだけの全くの素人同然で、多少の肥料と水さえやっておけば、植物は自然に育つものと思っていました。花もきれいでキュウリやミニトマトも植えてすぐは順調に育つのですが、花は盛りが過ぎると急速に枯れてしまったり、キュウリやミニトマトも思ったように収穫できなかったりと、がっかりすることの繰り返しでした。

1年次の授業で土づくりの大切さや土の中にある微生物の働き、害虫の駆除が必要なこと、作物によっては同じ土を使うと連作障害が起きることなどを勉強しました。また光や土中の温度、気温も作物の成長に大きく影響し、種まきの時期や植え替え、間引きの必要性も学びました。

花壇栽培も同様で、先輩方の花壇は花も豊富でとても見栄えがするのに、私たちの花壇は頭に描いていたように花が咲かず、特に種や球根から育てようとしたものは、芽が出なかったり、花が遅れて咲いたり、時期をはずして満開になったり、なかなか思い通りにいきませんでした。



これらを踏まえて2年目の挑戦です。講師の先生も「酷暑や寒すぎる時期は避けて、農園作業や花作りを楽しみましょう」と言ってくださっています。カレッジでも自動散水の計画や小型耕運機の購入など支援してくださっています。新たなキウイやリンゴ、ブドウの果樹栽培の授業も、枝の剪定や種なしを作る処理方法なども学べてとても楽しみです。雑草や虫との格闘、小鳥やカラスの対策を楽しみながら、失敗を恐れず、勉強したことを生かしていきたいと思います。



神戸市シルバーカレッジ 29期生卒業式

令和7年3月25日、神戸市シルバーカレッジの卒業式がカレッジホールにおいて執り行われ、29期生236人が卒業しました。

学長式辞

前田学長は、29期生が入学した2020年を振り返り、その年がロシアのウクライナ侵攻や、新型コロナの感染拡大の3年目にあたる年であったことに触れました。同時に、コロナ対策が徐々に緩和され、昨年の学園祭では来場制限が5年ぶりに解除されるなど、変化の中で過ごした3年間の学園生活についても言及しました。



また、ある心理学者の言葉を引用し、「すべての人間に共通して幸せだと感じる瞬間は他人に貢献できていると感じられたときである」と紹介し、「他者貢献と自己犠牲との違いは自分が幸せと感じられるかどうかの違い」であることや「他者貢献は相手から見返りを求めないことで、相手にしてあげると考えるのではなく自分がしたいからする」ことだとし、具体例として、電車内で席を譲る場面を挙げ、他者への思いやりの重要性を説きました。

最後に、これまでの3年間の経験を生かし、自己実現と他者貢献に努めてほしいとの激励の言葉を卒業生たちに送りました。

在校生送辞

在校生を代表して健康ライフ30期の松田 秀一さんは、コロナの影響でままならなかった3年間のカレッジ生活にも関わらず、29期生が学校行事を引っ張り、クラブ活動、ボランティア、地域交流活動などに積極的に参加してきたことに敬意を表しました。

最後に、シルバーカレッジで学んで得たことを大切にし、カレッジのモットーである「再び学んで 他のために」の精神を社会で実践してください、と卒業生にエールを送りました。



卒業生答辞

卒業生を代表して健康ライフの山本 正秋さんが、在学中の多方面にわたる支援への感謝の言葉を述べました。

阪神淡路大震災から30年が経過し、29期という数字を改めて考えると1期生の苦労に思いを馳せるときがあり、再入学の自分にとっては通算6年間のうち4年間にコロナが付きまとっていた環境にも関わらず、シルバーカレッジで過ごした期間は何ものにも代えがたいものだったと話しました。特にフランス語同好会を立ち上げたことや3年生のグループ学習など感慨深いものがあると振り返りました。

卒業後の過ごし方は人それぞれですが、ここでの絆を大切にし、健康を第一に考え、他のために尽くしたいとの決意で言葉を締めくくりました。



卒業式当日の様子

卒業式の卒業証書授与や式後の各教室などの様子を写真でご紹介します。



正面玄関の卒業式立て看板



卒業式前のレジャホール



卒業証書授与



卒業証書授与



卒業証書授与



健康ライフコース



国際交流・協力コース



生活環境コース



美術・工芸専攻



音楽文化専攻



園芸専攻



食文化専攻

神戸市シルバーカレッジ 29期生歓送交流会

2月29日と3月10日から12日の4日間、各コース・専攻の29期生歓送交流会がカレッジホールで行われました。各コース・専攻とも工夫を凝らした歓送交流会で卒業する29期生を送りました。

《健康ライフコース》

31期 曾我 智行

健康ライフコース29期生46人の歓送交流会が、3月10日にカレッジホールで行われ、在校生が大きな拍手で迎えるなか、3年生の入場でスタートしました。

始めに黒田常務理事が祝辞を述べられたあと、対面形式に配置された椅子に各学年が座り親睦会を行いました。そのなかで「有意義な学園生活のために3年生からのアドバイス」として、「…すべきだなど難しいことは考えないで今を楽しむことが大切です」という言葉には興味深いものがありました。



後半は3年間の思い出のビデオアルバム上映から始まり、アトラクションがKSCオカリナチーム、混声合唱団コーロKSCによる演奏・合唱と続きました。

次に、2年生代表、1年生代表が送別の言葉を述べ、そして卒業生代表から、「さまざまな困難がありました、終わってみると楽しい3年間でした。卒業後は、それぞれ異なる道を歩み、多忙な日々を送ることになると伺っています」と力強いあいさつがあり、和やかな雰囲気の中、歓送交流会を終えました。

《国際交流・協カコース》

30期 大田 正和

3月10日カレッジホールにて国際29期の歓送交流会が開催されました。実行委員長による3年間の出来事ベスト10の動画を交えた軽妙な紹介を皮切りに、在校生からのアンケートにもとづく「3年生の本音トークあれこれ」、世界遺産に関するクイズ大会と、手の込んだイベントが続きました。

いずれも3年生の代表が壇上に上り、本音ベースの楽しいインタビューやグループ学習チーム代表によるク



イズ競争で、観客も一体となり大いに盛り上がりました。ミュージ研による「オズの魔法使い」では、あらためて劇の楽しさを満喫できた人も多かったと思います。

その後、在校生全員がフロアに降り、3年生を送る歌と題して、「上を向いて歩こう」と「糸」を3年生に向けて合唱しました。最後に「いい日旅立ち」の音楽に合わせて在校生によるアーチをくぐって3年生が退場されました。心のこもった数々の演出で、3年生の皆さんにとって記憶に残る歓送交流会になったことと思います。

《生活環境／ECOライフコース》

31期 倉光 寛

3月11日10時30分より29期生の歓送交流会が開催されました。

卒業生入場・来賓紹介に続き対話の時間が始まり、30・31期生より事前に提出したグループ学習についての質問事項を29期生より回答してもらう形式で進められました。代表的な質問の趣旨は「どうやってグループ学習のテーマを決めたの?」でしたが、「たいそうに構えて議論して決めたのではなく、集まって話していくうちに自然に決まっていた」という趣旨の回答が印象に残りました。また、実際のグループ学習の活動例を紹介してもらいましたが、テーマに沿った国内外の関連場所に調査に向かうなど、そのACTIVEな取り組みに驚きました。その後、みんなで合唱をし、卒業生をお見送りし閉会の予定でしたが、サプライズで



堀コーディネータが人事異動でシルバーカレッジを去ることが発表され、急きょ堀コーディネータのお見送りをして閉会しました。

《美術・工芸専攻》

30期 岡本 雅博

3月11日、カレッジホールで29期生への感謝を込めて歓送交流会が行われました。オープニングでは31期生の「贈る言葉」の合唱で始まり、「美工3年生」の懐かしい曲の替え歌で場を盛り上げました。その後、29期生の3年間を知る事



務局の加藤さんのメッセージを聞きながら、思い出の授業風景を楽しみました。きっと懐かしい思い

出がよみがえってきたことでしょう。

思い出に浸ったあとには、30期生の「翼をください」の合唱と、「今日の日さはようなら」を全員で合唱しました。29期生の皆さんが肩を組んで立ち上がって歌う姿に感動した次第です。

記念品贈呈では市野先生に作っていただいた「冷酒用酒器」を贈りました。

29期生が残されたグループ発表会や卒業制作展では、そのパワーの凄さを感じ大きな目標となりました。ご卒業後もくれぐれもご自愛のうえ、さらなるご活躍をお祈りいたします。

《音楽文化専攻》

音文31期 安田 充利

2025年2月28日、音文の歓送交流会が粛々と行われました。

我らが指揮者土田さんのもとで練習が続くと思いましたが、土田さんが体調を崩して、大ピンチです！急きょ、3人の指揮者が手を挙げてくれました。しかし、練習は思うように進まず、不安を抱えたまま当日を迎えました。そんな中、ひと筋の光明が差し込みました。土田さんが無理を押しつけて参加してくれたのです。クラス全員が「今までで一番の演奏ができた！」と感じたと思います。

それでは、QRコードから当日の演奏をお聴きください。



《園芸専攻》

31期 明石 達雄

3月12日午前10時30分、カレッジホールに在校生から盛大な拍手で迎えられた29期生が入場しました。着席のあと、司会者より開会が宣言され、園芸専攻29期歓送交流会が始まりました。校歌斉唱のあと、30期副代表より開会のあいさつがあり、続いて来賓を代表して金地通生先生からご祝辞をいただきました。そして厳かな雰囲気の中、会は進んで行きました。まずは、スクリーンに「カレッジの思い出アルバム」が映し出され、教室、農場、花壇での授業や作業風景など思い出深い3年間の記録に、懐かしさから卒業生の皆さんの顔からは笑みがこぼれていました。

次のアトラクションでは、今回はサークルの皆さんによる演奏や演技はありませんでしたが、思い出に残る演出がありました。まずは卒業生からのプレゼンテーション「花壇と共に過ごした日々」です。1年生の春に各班に管理を任された花壇で四季の移り変わりのなか愛情込めて育てた花たちとの3年間を、多くの美しい写真と語りで構成されていました。32期生に花壇は引き継がれても私たちの記憶に残ることでしょう。



次のアトラクションの間に、卒業生代表より在校生に贈る言葉と記念品の贈呈がありました。卒業生の皆さん、ありがとうございました。最後のアトラクションは30期生による「カレッジほどり」です。これは東京農業大学の応援歌「青山ほどり」をアレンジし、29期生の収穫祭（卒業）を祝う、皆さんもご存じの「大根踊り」です。舞台の上ではカラフルな法被に身をつつみ大根を両手に持った学生たちが、迫力ある大太鼓の音と舞台下からの歌声に合わせ統制の取れた踊りが披露されました。練習の成果が遺憾なく発揮された見事な舞台でした。卒業生も感動されたことでしょう。アトラクションの終了後、31期生代表より閉会のあいさつが行われ、司会者より閉会が宣言され盛況のなか歓送交流会は幕を閉じました。

《食文化専攻》

31期 長光 元久

3月12日、食文29期生の歓送交流会が開催されました。29期生の先輩たちが晴れやかな表情で入場され、その姿は3年間を物語るように自信にあふれ、達成感に包まれていました。

3年間を振り返るインタビューでも、ことばの端々に思いが感じられ、私たちが残された時間をしっかり学ばなければとの決意を新たにしました。30期生の先輩たちのスムーズな進行で、各サークルの発表にも力がこもり、大いに盛り上がりました。食文で長く授業を担当された清水先生が、締めくりのごあいさつのなかで、ご勇退されるとのお話がありました。本当に長い間、私たちを見守り、導いていただきました。ありがとうございました。

お見送りでは、食文恒例の手作りクッキーを贈呈され、在校生の盛大な拍手のなか退場されました。



第52回神戸まつりに参加して

第52回神戸まつりが5月18日(日)に開催されました。シルバーカレッジからボランティアとして参加した2つのグループに当日の活動を報告していただきました。

KSCアロハハワイアンズ

健康31期 谷 能成

神戸まつりは、例年雨になることが多く、今年も2日前まで大雨警報の可能性が高いといわれていた天気予報が、前日には晴れに変わり、安堵いたしました。

私たちKSCアロハハワイアンズは、バンドメンバー10人、フラダンス10人の総勢20人で、東遊園地のオン・ユイットステージに出演しました。



披露した曲は「プアマナ」「南国の夜」「バリバリの浜辺」の3曲です。

新緑がまぶしい中での

ステージは演奏・演舞していて、たいへん気持ちの良いものでした。

フラダンスは昨今のブームで教室も増えており、さまざまなグループがイベントに出演されていますが、私たちのように生バンドのあるグループはあまりないように思います。

メンバーの中には、入学して初めてフラダンスやウクレレ演奏を覚えた人もいます。皆ハワイアンが大好きで、日々練習を重ね、先輩方に支えられてステージに立つために頑張っています。

このような大きなステージに出演する機会が持てるのも、KSCサークルならではといえるもので、貴重な経験をさせていただけたことに大変感謝しております。

この経験により、「祭りは見るのも楽しいが、やはり参加するほうがより一層楽しいこと（神輿は担いでこそ楽しい）」を皆実感した次第です。

メンバー一同、また次の感動、次のステージに向けて練習に励んでまいります。



KSCイベントぴかぴか隊

国際31期 岩谷 照

5月18日(日)に「第52回神戸まつり」が開催されました。

週間天気予報では雨模様でありましたが、当日は晴れで会場にもたくさんの人々が押し寄せ、外国人の姿も見受けられました。会場は「三宮フラワーロード」、「東遊園地」、「旧居留地」で行われました。おまつりパレードが行われる中、



我々「KSCイベントぴかぴか隊」56人とOB組織である「神戸ぴかぴか隊」約150人がボランティアとして参加しました。会場案内、

迷子確保や清掃などの活動を行い、メイン会場のフラワーロード東側と東遊園地を担当しました。



初参加の隊員からは、久しぶりの神戸まつりを楽しみながらボランティアができて良かったと言う声もあり、地元神戸の盛り上げに貢献

できたとともに、「ぴかぴか隊」の存在感を感じることができました。

これから「神戸マラソン」、「阪神淡路大震災1.17のつどい」、「ルミナリエ」などのイベントにボランティアとして参加していく予定です。さらに、今年は阪神淡路大震災から30年目の節目を迎え、昨年11月から1年間、震災の経験を広く継承・共有するためにいろいろな記念事業が開催されています。皆さんもこれらにボランティアとして参加し、愛する地元神戸を一緒に盛り上げましょう。



サークルだより

◆絵画ボランティアグループ&陶芸ボランティアグループ

絵画・陶芸 合同作品展 ~2025 夏のギャラリー展~

- 開催日：2025年7月8日(火)~13日(日)
- 時 間：10:00~17:00 (最終日は16:00まで)
- 場 所：新長田合同庁舎 1F・展示ギャラリー
- 入場料：無料

毎年7月に開催する絵画&陶芸ボランティアグループ合同の展示会です。主に2,3年生が作成した自慢の作品を40~50点、OB講師の招待作品を数点展示します。

※9月号では10~12月の情報を掲載します。予定のあるサークルは infodesk@ksc-sofu.net まで情報をお寄せください。



事務局だより

◆事務局職員の人事異動

〈3/31 退任・転任〉 〈4/1 就任〉

総務マネージャー： 大窪 昌子 由良 康二
 コーディネーター： 堀 茂 未永 りか

◆就任あいさつ

《由良 康二》

4月より総務リーダーに着任しました由良です。

しあわせの村での勤務は23年ぶりです。時が移り、部署が変わり、細かく覚えることがたくさんありました。パワフルな同年代の方々がたくさん学んでおられる息遣いを吸収したいと思います。いくつになっても学んで働くという実践を目指して頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

《未永 りか》

4月から生活環境/エコライフコースのコーディネーターを担当することになりました未永です。

「再び学んで 他のために」というカレッジの精神に魅力を感じ、一般企業からの転職でカレッジでのお仕事に初チャレンジさせていただくことになりました。

生き生きと積極的に活動されている皆さんの姿を見て、日々元氣と感動をいただいています。

カレッジスタッフの皆さんと心を合わせ、カレッジに通う方々が楽しく学んでいただけるよう頑張ってみますのでどうぞよろしくお願いいたします。

文芸サロン

《俳句クラブ》

野面積み続く城址や桐の花
 菜花咲く小島巡りと旅便り
 春霞船から眺むポートタワー
 仰ぐほど三十年経ちて花水木
 朝鳥の啼きを聞きたる花辛夷
 行く春や昼の蕎麦に旅の酒
 風炉開き句会の熱を帯びしまま
 木漏れ日の揺るる土塀や藤の花
 狼煙台在りし処に花の雲

奥山 繁男 大高 松男 中井 芳樹 岩佐 英和 山本 成人 石井 牧子 笠川 早代美 佐野 貴代美 谷口 裕

《川柳くらぶ》

仲間増え財布の紐と頼緩む
 トラ関税打つ手惑わすあの手口
 仲間づくりに商品券を配る人
 飲む打つ買うは薬と鍼とサロンパス
 夢うつつ昔の仲間深夜二時
 不動明王ニコリ笑って飯行こか
 困ったとき頼りになるのは仲間たち
 心打つ言葉が欲しい褪めた夜

濱田 一步 濱田 一步 明石 楽泉 明石 楽泉 経塚 シゼル 経塚 シゼル 戸島 峰 戸島 峰

《応募作品》

リビングのドアを開けると止む会話
 午前4時メール飛び交うKSC
 種からの実り愉しむ農作業
 白無垢が桜に映えて前撮り日

安田 維之 安田 維之 安田 維之 土屋 博子 土屋 博子

文芸サロンへの投稿や爽風への
 ご意見・ご感想はこちらから



グループわ だより

第22回定期総会開催（5月24日午前）

総会に先立ち、令和6年度功労者表彰式が行われました。今年は4人の個人と1つのグループが表彰されました。

総会は理事長のあいさつに続き、シルバーカレッジの前田潔学長から来賓あいさつをいただき開会しました。令和6年度の活動報告・決算、令和7年度の活動方針・予算、理事選任が688人（委任状含む）による審議・決議をもって承認されました。



交歓会開催（5月24日午後）

交歓会では、17組のクラブ・グループがカレッジホールで演技・演奏をしました。ふれあいホールではお茶のもてなしや会員の絵画展・写真展のほか4グループの参加があり、大変にぎわいました。展示は5月30日まで継続されました。



グループわ で一緒に活動しませんか。
在学中でも入会可能・大歓迎です！
活動の詳細は、Web サイトへ
<http://wa-net.jp/group-wa/>



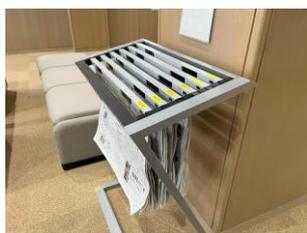
図書室だより

32期生の皆さま、ご入学おめでとうございます。

1年生の皆さまはそろそろカレッジの空気に慣れてきたと思いますが、この機会に図書室をのぞいてみてください。

まず入ってすぐの所にゆったりと座れるソファがあります。新聞は、朝日、読売、神戸、日経の4紙を置いています。10時から開いていますので、朝一番に座って、のんびりと新聞各紙に目を通すのはいかがでしょうか？

また、クラブに行くまでの待ち時間に雑誌を読むのもお勧めいたします。14種類置かれています。最新号以外は借り



ることができます。同時に2冊まで期間は2週間です。

図書室は静かで快適な空間です。ゆっくり過ごしていただきたいと思っています。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



編集後記

◆この6月号は、新年度の第1回目の編集・発行になります。32期生の編集委員を含め24人の新しいメンバーが加わり、新体制でのスタートとなりました。各サークルと同様に31期生が中心となった体制ですが、戸惑うことも多く、試行錯誤の連続でした。

◆情報誌「爽風」は、開校翌年の1994年2月に、「カレッジと学生、学生相互の情報交換を通じて新しい校風をつくる一助になれば」という強い思いを抱いた学生により、クラブ活動の一環として創刊されました。それ以来31年間、発行費用や人材不足など運営面での苦労や阪神淡路大震災、コロナ禍といった困難を乗り越えながら発行を続けてきました。

◆情報誌「爽風」を取り巻く環境は、31年前と大きく変わりました。当時はインターネットがようやく一般家庭に普及し始めたばかりで、現在のデジタル社会と比べると、情報の伝達力に雲泥の差がありました。

◆一方、シルバーカレッジ入学者の平均年齢は、正確な記録が残る2003年からの12年間だけで5歳上がり、2025年は71.2歳になったようです。

◆デジタル化と高齢化が進む中、情報誌「爽風」がどういう役割を果たしていくべきかを模索しながら、紙面作りをしていきたいと思っています。

情報誌編集委員会